

5. 映像教材“イメージ”

－作成の目的と経過、使用報告－

山下 早代子

I. はじめに

I C U新テキストの中の各課には映像教材（ビデオ）としての“イメージ”と呼ばれる部分が組み込まれている。本来は全33課について各3シーンずつ、計99シーンを作成することになっているが、現在はそのうち33シーンがテスト用ビデオとして編集済みである。（1課につき1シーンを試用版テキスト1に間に合わせて作成、以下教科書は試用版、ビデオはテスト版と呼ぶ）。映像教材は新しい時代の語学テキストにはもはや不可欠な要素となりつつあるが、我々はこれをどのような意図で新テキストに盛り込もうとし、どのようなところまで具体化することができたか、その経過、そしてそれをどのようにして授業で扱ったかを報告し、今後の展望を考察する。

II. 映像教材としての“イメージ”の誕生

1989年の11月に八王子のセミナーハウスで新テキスト作成のための泊り込みリトリート（集中会議）が12名のI C U日本語科（以下J L P）および日本語教育研究センター準備室専任教員によって行われた。そのときに1課の構成をどのようにするかが4つの班（分科会）に分かれて話し合われ、2班によって同じように提案された案が、新しい課の内容を映像教材（ビデオ）によって導入するというものであった。この時は文法項目を主軸にテキストが構成されるはずであったので「内容」とは主に文法項目のことを意味していた。新しい構文を導入するにあたり、状況や場面がはっきり提示でき、学生の記憶に残りやすい、というのがビデオ使用案班の主な理由であった。この映像教材は短い会話の形式またはナレーションのような形で、I C Uの学生が遭遇するであろう場面や人間関係を題材にすることにし、それを“イメージ”と呼ぶことにした。この時の合意に沿って、翌1990年1月からいよいよテキストの試用版作成が始まり、分担した課の作成者（注1）は“イメージ”部分を映像化することをふまえて、シナリオの形でテキスト本文冒頭に書いた。

1990年4月には、“イメージ”の役割、目的についてより明確なコンセン

サスを持つため、合意を再確認し、次のように文章化した。

“イメージ”の役割・目的：（“タタ”の注付き）

（1990.4.10.）

学習項目（文法）とそれに関連する機能、意味、用法などを特徴的な、学生の印象に残るような状況と結び付けて提示する部分である。短い会話または説明による3つの場面（イメージ1-2-3）によって構成され、（ただし、3つの場面は必ずしも内容、話題が続いているわけではない）同じ題材が映像（ビデオ）と文字*（各課の最初に提示）の両方により提示される。理解を目的とし、発話練習に発展させるものではない。

*もとの原稿では「文書」

その後、試用版1の完成間際に、テキストにのせる“イメージ”部分は本文冒頭でビデオの絵コンテの印象的な1コマをイラストによって、シナリオ部分をつけて提示するという形で統一した。この時点で99シーン分のシナリオの一応の完成を見た（参考1）。

“イメージ”1コマイラストより（L. 17「とびこみ」）

L. 17 ここからとびこめますか

イメージ 1 （By the diving board in the ICU pool）

A：（下のボードで）ここからとびこめますか。

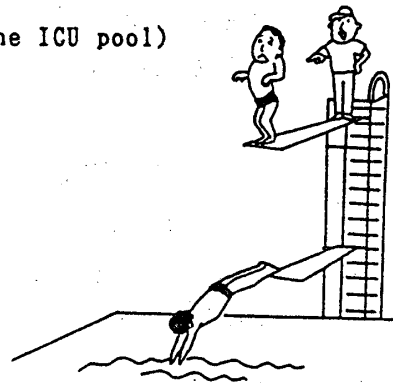
B：はい、とびこめます。（と、次々とびこむ）

A：（上のボードに来て）はい、では、次は、ここから。

B：ええー！こわくて、とびこめませーん。

A：水泳のインストラクター

B：学生たち



しかし、この時点までに映像教材についての可能性や役割、方法論、使用理念などについての理論的な裏付けについての研究会は持たれなかったため、担当者
の見解によって、言語形式に重点をおいた“イメージ”、機能面に重点をおいた
“イメージ”、非言語的要素までもを配慮した“イメージ”など様々なタイプの
“イメージ”ができた。

Ⅲ. 映像教材としての“イメージ”テスト版が撮影、編集されるまで

上記Ⅱでは新テキストに映像教材を含むというところまでの関係教師側の合意と素材部分（シナリオ）の作成までを述べた。映像教材を完成するにはこのあと専門家（監督、カメラマンなど）による撮影、編集という作業が続くことになる。今後の映像教材の日本語教育への影響、たとえば今後教師自身が映像教材作成に係わるというようなケースも増えてくることを考えると（注2）、1本のビデオを完成させるために、どのような手続きが必要なのかを日本語教師自身が知っておくことは意味があるのではないかと思われるので、ここに“イメージ”ビデオ完成までの経過を日を追って振り返ってみることにする。

1. スケジュール

1990年

- 5月15日 ビデオ制作者、カメラマン、出演者を探す作業スタート
- 5月21日 監督A氏と交渉
- 5月22日 I C U総合学習センター（以下I L C）センター長白沢氏に映像教材作成に関する相談と協力をお願い（注3）（日本語教育研究センター準備室長より）
- 5月23日 監督A氏来校、話をする／A氏より経費見積書が提出される
- 5月24日 監督竹中氏（白沢氏の紹介による）来校／撮影に必要な機材、人員、予算の話／撮影・編集に関する具体的なプラン
- 5月30日 各課からテスト版としてどのイメージを映像化するか担当者が選ぶ（注4）／“イメージ”タイトル、場所、登場人物の表作成
／センター準備室会議において中間報告→竹中氏に制作を依頼することを決定
- 6月 1日～6月20日 出演者の交渉（アマチュア劇団、外国人学生、ダイビングクラブ、etc.）
- 6月12日 撮影プランに沿った「ビデオ制作項目一覧表」が竹中氏より提出される
- 6月14日 撮影プランの調整
- 6月16日 最終項目完成
- 6月19日 I L Cからの機材借用の段取り／撮影助手として大学院生をアルバイトで依頼
- 6月20日 「ビデオ制作項目一覧表」の微調整→（資料1）

体育館館長に撮影依頼書をセンター準備室長名で提出（L17「飛び込み」シーンのため）／A棟管財課長に撮影依頼書をセンター準備室長名で提出（L22「自動ドア」シーンのため）

- 6月26日 撮影進行表（キャスティング表）完成（資料2）
- 6月27日 ICUスタジオにて15シーン分を撮影（1シーン約10～20秒分の撮影に各約20分程度を要す）
- 6月28日 午前中スタジオにて7シーン分を撮影／午後キャンパス内ロケーション（プール、A棟2F、バカ山、本館裏庭、グラウンド、シブレーハウス、バス停、クラブハウスわき）
- 6月29日 午前中キャンパス内ロケーション（マクレーン通り、コーブランド宅）～武蔵境駅周辺（南口キヨスク、南口広場、北口商店街：花屋、瀬戸物屋、洋品店）／午後吉祥寺周辺（鈴木道場、映画館前、井の頭公園、JR中央線車内）
- 6月30日 ビデオ編集→完成
- 7月03日 センター準備室会議で最終報告
- 7月04日 試写会（ILCラボ Rm.104 においてJLPおよびSCJ関係教員を対象に行う）

2. ビデオ制作に関わった人（ILC、JLP関係者を除く）

- ・監督1名
- ・カメラマン1名
- ・助手1名（スケジュール調整、小道具調達、セッティングその他）
- ・出演者：アマチュア劇団所属員7名
ICU外国人学生3名
ダイビングクラブ「オルカ」クラブ員4名

3. 完成ビデオの補足説明

まずこのテスト版はあくまでもテストサンプルであって、長期間にわたって使用する目的で作成したものではないということを断わらなければならない。1990年度夏期日本語教育（以下SCJ）に間に合わせるべく、上のスケジュール表でも分かるとおり非常に短い時間で、限られた方法で（注5）撮影、編集された。語学教育に使用するという目的がわかっているにもかかわらず、出演者（外国人学生も含めて）に正しい発音、発声、演技の指導をする時間がなかったし、良質の音を得るために音と映像を別に収録するというようなことも費用と時間の関係で割愛し

なければならなかった。映像教材では重要な要素となる文化的背景や非言語に対する配慮も十分にできなかった。そういう意味でいえば実はこのビデオはまだとても実際の授業で利用できるものではないのかもしれない。しかしこのビデオによって、新しい試み（映像教材）が、できる範囲で形にされた場合、どのようなものになるか、そしてそれを実際の授業で試験的に使用した時どのような結果がもたらされるかを多少なりとも知る手段になるのではないか、そこにこのテスト版ビデオの意義があると考える。このビデオは最終的に一番望ましい映像教材を完成するための試行錯誤の材料として試用版テキストと共に使用する目的で作成されたのである。

IV. 使用報告

次に実際に使用したコースの報告と学生の反応に関するコメントについて述べる。

1. 授業でどのように使用したか

(1) J 2 コース（初級 2 レベル：約 100 時間学習済み）：

SCJ および秋の J 2（田中：1990.10.30.報告）では各課で必ず見る時間を設けたが、必ずしも当初予定していた導入部でだけ使用するのではなく、課によっては途中で入れたり、課が終わった時に見て内容チェックに使用したりした。終わった課を 2～3 課まとめて見ることもあった。またくりかえし見るということもした。復習として見る時は、状況説明をさせるというような教室作業が可能だった。“イメージ”とトピックがうまく結びついた場合は効果的で、導入にうまく使えた。（例：L 17「プールの飛び込み」可能形、L 13「母の日の掃除」“しなくてもいい”）。テスト版のため、シナリオ部分がこなれていないものや難易度の高いものがあったことも事実である。また編集段階で映像のもつ特徴、意義を十分生かしきっていない“イメージ”もあった。（これについては別に述べる）。他に、復習に使用した時、完全とはいえない外国人出演者の発音を逆に同じ立場の自分達（留学生）の問題点として意識的に捉え、矯正に役立てることができた。SCJ・J 2 の別の担当者（高木）からは“イメージ”を授業のまとめに使用したとの報告がある。もし導入に使うなら言葉の難しいもの、音が不鮮明なもの（3. 完成ビデオの補足説明参照）を選別する必要がある。また、映像による導入という方法に慣れていない学生が多いので、始めに説明するとよいだ

ろうとのコメントがついている。

(2) J 3 コース (初級 3 レベル: 約 200 時間学習済み):

SCJ の J 3 A (山下) では、コースの始め何回かで L 1 ~ L 2 2 までの “イメージ” を見せて、初級既習文法の復習、および学生の基礎力の診断を行った。コース全体の授業計画では新しい課に入った 1 コマ目に導入として見せる予定を組んだ。何も予備知識を与えないでいきなり見せて十分導入として使えたものもあったし (例: L 2 3 「やきそば」、L 2 7 「昼食会での挨拶」)、新出語彙や表現を提示し、フォーメーション (活用練習) を入れてから見せた方がいいと思われたものもあった。(例: L 2 5 「非難袋」)。各イメージは正味 10 ~ 20 秒足らずなので、通して何度もくり返し見せ、ビデオを止めながら確認作業などを入れたりした。2 日で 1 課というスケジュールであったので、2 日目の頭でも見せた。また導入だけでなく、ロールプレイのモデル会話として使用したり (L 2 7)、一部の表現だけをビデオの登場人物の代わりに言わせたり (L 2 6 「シンポジウム」 “私も行けばよかった、残念です”)、話題を発展させる (L 3 1 「花のトンネル」 “ここはどこかわかりますか、さくらの花をみたことがありますか” など) 等のさまざまな活動も行った。応用として学期末の学生創作の寸劇シナリオ (スタジオで学生が実際に演技しビデオに収録する) にイメージ部分を組み込む課題を与えた。長いストーリーの一部として L 2 8 「電車の中の親切」や L 2 5 などが使われたが、ビデオ映像がまだできていないために教室ではシナリオ部分だけをイラストによって学習したイメージ (L 3 0 の 1 「子供のため」、同じく 2 「デイスコで」) が使われたのは学生の想像力を何か刺激するものがあったのだろうか。

SCJ の J 3 B (鈴木: 1990.10.31. 報告) では、学生にとって既習の文法項目が多かったため、導入部でかなり細かいことができた。既習文法を扱ったものは文法、表現の確認、中心になる文に注目させる、言えるようになる練習をする等を行った。新しい構文でも比較的容易なものは場面導入として、使用する状況を視覚的に紹介し、練習を行った。構文の難しいものはまずシナリオ部分を解釈しながら会話練習し、確認のためにビデオを見せた。秋の J 3 (鈴木同) のコースでは、基本的には導入に使用した。難しいと思われるもの (例: L 3 3 「花を送る」) はまとめとして課の終わりに見せた。復習として何本かをまとめて見せるということも行った。

(3) I 1 コース (集中日本語初級レベル 1 ~ 3: 0 時間 ~ 300 時間):

集中日本語初級 1 (インテンシブ I) では 1 週間に 1 回のビデオのクラスで “イメージ” を導入用としてではなく復習用の教材として使用した (担当小川: 以

下小川メモより：1991.3.）。各“イメージ”ごとに次の3つの方法をとった。

- ①通して見せる。L1～L8あたりまではテキストを見せて、会話の内容を文字で読みながら、9課以降は耳で聞く方を中心にした。
 - ②全体をどう理解したかを質問する。
 - ③2の反応や質問により1文ずつ区切って聞き取りをやったり大まかに区切って何回も聞いて、納得できるまで聞き取りを行った。
 - ③についてはいくつかの方法があげられる。
 - a. 内容について教師から質問する。正しく答えられれば、もう1～2回聞いて終わる。正しくなければ、区切りながら聞いて、正しく聞き取れるかをチェックする。
 - b. 聞き取れない文があった場合、その文を学生に言わせ、正しく聞き取れているところだけを板書する。何回か聞きながら正解が出る度にその部分を追加板書する。文が完成したら確認のために聞く。
 - c. 聞き取った音と、文字が異なった場合の説明。（例：助詞の欠落など）
 - d. 動作や行動、背景についての説明やディスカッション。
 - e. 文法事項が理解されていない場合の説明。
 - f. 未学習の語彙の説明。（e.g. L21「写真」「シャッター」）
 - h. 一文を取り出してリピートさせ、正しく聞き取れているかをチェックする。
- I1ではビデオの時間が1週間に1回なので、1回のクラスで4～5課分の“イメージ”を見せた。1つ1つの“イメージ”はほんの数10秒なので短時間でできそうだったが、このような形で復習としてじっくりやれば、全部で60分はたっぷりかかるだろうというコメントがついている。

(4) J1コース（初級1レベル：0時間～100時間）：

J1は担当者の方針で“イメージ”ビデオは使用されなかったのも、報告することができない。

2. 学生の反応

(1) J2：

J2では特に大きな批判は出ていない。学生は楽しんでいた。外国人留学生の出演に対して好意的だった。画面で訴えていることが強すぎると、画面にとらわれすぎて肝心の表現の方がおろそかになった（例えば、L17「飛び込み」では臨場感がありすぎて言葉が正確に入らなかった、学内の知っている場所が出てくるとその場所の話になってしまった）との報告もある（高木）が、L17は非常にわかりやすいという評価も一方で出ていることを断わっておく。

(2) J 3 :

J 3 Aは毎回課の頭で導入として使用したので、わかりにくい“イメージ”の時も学生はまずは見て状況を理解しようという態度ができた。後半では慣れて、見た映像やストーリーに関して質問や話合いになることもあって朝のクラスのウォーミングアップとしての役目もはたした。このビデオ教材を楽しみにしていた学生も多く、時間の関係で後回しにした時にまだ見ていない、と学生の方から催促されたこともあった。また、素人ながら登場人物がかれらと同じ学生が多かったのは親しみが持て、外国人学生が出てくるのも自分達の状況とダブって親近感をもったようだ。

J 3 BおよびJ 3 (秋学期)では音質の悪さに関するコメント以外はおおむね肯定的だった。そのほか使う場面を理解するために役にたつ、各課3シーンの“イメージ”が全部そろっている方がいい、という意見などがあった。

(3) I 1 :

アンケートは取らなかったが、興味を持って見ているようだった。不満を持っている様子は見られなかったし、文句もでなかった。要望として、面白いものがみたいということが挙げられる。

V 今後の検討事項

1990年10月31日の鈴木報告で今後の検討課題として次の3点が挙げられている。

①何を提示したいかの吟味の必要性

a.使われる場面

b.Non-verbal な要素(うなづき、手振り、etc.)

c.あいづちなどのイントネーション

d.文のかたち(音声)

②提示したいことがらと学習段階の関係

(②' 提示したいことがらと文法項目の関係)

③「提示したいことがら」の提示のための、一番適切な方法は何か。

音声、文字、絵、映像

また同じく鈴木報告ではS C Jで使用した時の反省点として、

①何のために使うかわからない

②どうやって使うかわからない

③難しすぎる

④未習の事項がでてくるとやっかい

の4点が挙げられている。このうち、①②は教師の側の映像教材に対する理解の問題なども関わっているように思える。新しいタイプの教材を使用する場合は教師の教育も大きな課題の一つである。③④に関してはシナリオ作成段階でのつめた検討が必要であろう。

VI. おわりに

以上、1989年秋からスタートして1990年夏に部分的に完成した“イメージ”ビデオのテスト版についてその作成経過と使用状況を報告した。今後未完の“イメージ”およびテスト版を越えた最終版完成のための資料となればと思う。

最後になるが、何もわからない日本語科グループのために御尽力下さり、大変貴重な御助言を下さったICU総合学習センター長の白沢深山氏、浜敏彦氏、限られた予算と期間の中で最大限の仕事をして下さったUNIMOTOの竹中晴彦監督、大野晴嗣カメラマン、撮影助手をして下さったICU大学院生森祐治君、演劇グループ「小劇場」の皆さん、同じく出演者のICU留学生 Greg Duncan さん、Barbara Voss さん、Pia Sundman さん、ICUオルカダイビングクラブの皆さんに感謝し、お礼申し上げる。

注1：“イメージ”を含めてテキスト本文33課の草稿は4名の講師（村野、鈴木、平田、山下）が分担して執筆した。そして下書き原稿ができあがる度に講師6名の間をまわしテキスト検討会で検討した。

注2：日本語教育学会視聴覚教育研究会の教師による自主制作ビデオ教材「誘う。断わる」、「みんなでコンパ！」（例会、1990）、アジア大学英語担当講師作成による日本人学生のためのビデオ（JAL T大宮大会 “Video use at Asia University ” 1990）などが報告されている。

注3：撮影に必要な機（器）材、スタジオ撮影、編集などはすべてILCの設備と施設を使用し、その支援と協力で行うことができた。

注4：予算と時間が限られていたため、予定の99シーンのうち、33シーンをとりあえずSCJに向けて作成することになった。主要な文法項目を含めた各課3つの“イメージ”のうち、映像になりやすく、効果的なものを執筆担当者（上記注1）が選択した。

注5：映像では現場のロケーションをしたものもちろん一番自然なわけだが、上質の機材を使用しなければ音が鮮明に取れない（今回も学生や教師から音声が不明瞭なものがあるとのコメントが出ている）、採光が十分でないなどの問題がある（例：L29「鈴木道場」では採光が十分に得られる機材が予算の関係で使用できず道場の内部全体を撮すことができなかった）。また、ロケの場所を移動するたびに出演者と機材をすべて移動させることは限られた日数と手間、予算の面から不可能であった。そのために、今回は人物の絡むロケーションシーンは極力減らし、風景は別に撮影し、出演者はスタジオで演技し、あとで2つの画像を合成させるというクロマキー方式を用いた。そのほか公共の施設の撮影（例：駅）には事前に許可を願う必要がある。

参考2「日本語教材ビデオ撮影進行表」

日本語教材ビデオ撮影進行表

1990/6/28:am
スタジオ/ロケ

No	Time	Less	Imag	♂1	♂2	♂3	♂4	♀1	♀2	♀3	♀4
01	0915	9					○		○		
02	0935	13					○		○		
03	0955	18					○	○			
04	1015	30		○			○				
05	1035	33					○	○			
06	1055	19						○			○
07	1115	25							○		○
08											

参考1「ICU初級日本語教材 ビデオ制作項目一覧表」

ICU初級日本語教材 ビデオ制作項目一覧表

P.1

Lesson	Image	Title	Filming Plan	Characters	Conversation
1	3	傘立ての前で	・スタジオ (バックなし) (小道具: カサ立て+カサ)	A: 日本人学生 男① B: 日本人学生 女①	A: あっ、それは、わたしの傘です。 B: あっ、すみません。私の傘は、... あっ、これです。
2	3	駅の売店で	・スタジオ (バック: クロマー 駅の売店) 小道具: ティッシュ、新聞 衣装: A 普通着 B: 店員風ユニフォーム	A: 客 男② B: 店員 女③	A: すみません。この新聞はいくらですか。 B: 140円です。 A: これ (ティッシュを持って) も下さい。いくらですか。 B: 両方で190円です。 A: はい。(200円渡す) B: はい。(釣り銭をわたす) ありがとうございます。 A: どうも
3	3	日曜に公園で	・スタジオ (バック: 公園) 小道具: コーヒーショップ風の 椅子とテーブル (初めてのデート風)	A: 日本人学生 女② B: 日本人学生 男③	A: 日曜日にどこへ行きますか。 B: いつも、公園へ行きます。 A: 散歩をしますか。 B: いいえ。 A: じゃあ何をしますか。 B: トランペットを吹きます。
4	1	ニュース	・外の芝生 小道具: A 用 カサとレインコート B 用 傘かえ	A: 日本人学生 女① B: 日本人学生 男①	A: けさ、ニュースをみました。(傘を持って立つ) B: けさ、ニュースをみませんでした。(濡れてたつ)
5	1	セーター	・スタジオ (バック: 洋品店) 小道具: セーター 数点 衣装: A (客) 主婦風? B (店員) スーツ	A: 客 女④ B: 店員 女⑤	A: いらっしゃいませ。 B: あのセーターはいくらですか。 A: 3万5千円です。 B: 3万5千円? 高いですね。 A: これは1万2千円です。いかがですか。 B: そうですね。またきます。
6	2	キャンパス案内	・キャンパス (車で移動)	A: 日本人学生 男②	・ここが私の大学です。 ・木がたくさんあります。 ・緑が多いです。 ・でも、車も多いです。 ・そして、学生がたくさんいます。
7	2	テニス	・スタジオ (バックなし) 小道具: テニスラケット 衣装: A 普通着 B: テニスウェアか トレーニングスーツ	A: 日本人学生 (男) 男② B: 日本人学生 (男) 男③	A: テニス? B: ええ。 A: いいな、毎日? B: 毎日じゃありません。週に3回位です。 A: うらやましいな。 B: 今度、一緒にしませんか。 A: 僕、下手なんだ。 B: そんなことはないでしょう。
8	1	インタビュー	・外の芝生 小道具、特になし	A: インタビュアー 女① B: 日本人学生 女④ C: 外国人学生 女③ D: 日本人学生 男①	A: すみません。いま、何が欲しいですか。 B: えっ、わたし? 何が欲しい(ですか)? そうですね... お金がほしいです。 C: 私は、良い友達に欲しいですね。 D: 私は、(アドリブ) 「彼女」 「ガールフレンド」 A: すみません。今、何がしたいですか。 B: 今ですか。そうですね... 寝たいです。 C: いいアルバイトを探したいです。 D: クラスをさぼりたいです。
9	1	グリーンハイツ	・スタジオ (バック: ガソリン スタンドの 看板) 衣装: A 普通着 B 主婦風 (170cm?)	A: 学生 女③ B: 社会人 女④	A: すみません。このアパートはどこですか (でしょうか) B: 2丁目3番地の8、グリーンハイツ。 ああ、このアパートは、あのガソリンスタンドの横 です。ほら、あれです。 A: あっ、あれですか。どうもありがとうございました。
10	1	みんなを呼んで来て	・女子寮 (どこか明るくて)	A: 日本人学生 (女) 女② B: 日本人学生 (女) 女①	A: さちこさんは? B: お風呂に入っています。 A: のりこさんは? B: 電話をしています。 A: りえさんは? B: 部屋で手紙を書いています。 A: みかさんは? B: 猫と遊んでいます。 A: みんなを早く呼んで来て下さい。

ICU初級日本語教材 ビデオ制作項目一覧表

p. 2

Lesson	Image	Title	Filming Plan	Characters	Conversation
11	3	ワープロ	スタジオ (バックなし) 小道具: ワープロ 衣装: 普段着	A: 日本人学生 (♂) 男② B: 日本人学生 男③	A: あっ、新しいワープロを買ったんですね。 B: ええ、安かったんですよ。 A: なかなか、いいですね。 B: ええ、軽くて、性能がよくて、それに、デザインもいいでしょう。 A: 僕も、こういうの欲しいなあ。
12	3	映画館から出て来た 2人	スタジオ (バック: 映画館) 衣装: 普段着	A: ① B: 女②	A: さてと、今、4時ですね。ちょっと散歩してから、おいしいものを食べに行きませんか? B: いいですね。でも、ちょっとお茶をのんでから散歩しませんか。のどがかわきましたから。
13	3	母の日	スタジオ (バック: 家中) 小道具: 掃除機 衣装: 留男① 普段着 B: 主婦風	A: 留学生 留男① B: ホスト・マザー女④	A: お母さん、今日は掃除をしなくてもいいんです。 B: えっ。 A: 洗濯も料理もしなくていいんです。何もしなくてもいいです。僕にまかせてください。 B: どうしてですか。 A: 今日は、「母の日」です。 B: そうでしたね。じゃ、お願いします。
14	3	人口密度	スタジオ (バック: なし) 小道具: フリップ (表) ぬみの画: 畑、団地	A: 男① B: 女①	A: これは、このあたりの町の人口密度です。 B: H町は、一番、人口密度が低いんですね。 A: ええ、ここは、畑と山が多いんです。 B: N町は、一番、人口密度が高いですね。 A: ええ、N町には、大きな団地があるんです。
15	3	ふられっぱなし	学生 小道具: 特になし。 L.8-1と同時に撮る	A: 日本人学生 女② B: 日本人学生 (♂) 男④ C: 日本人学生 女①	A: お昼を食べにいきませんか。 B: 悪いけど、僕、これから泳ぎにいくんです。また今度。 A: あっそう。岡さん、一緒に食べにいきませんか。 C: 今日は両親がくるんで、駅まで迎えにいかなくちゃいけないんです。 A: だめですか。仕方がない、一人で食べに行こう。
16	1	日本語クラスの写真	スタジオ (バック: なし) 小道具: 写真	A: 日本人学生 女③ B: 女③	A: これ、私の日本語のクラスの写真です。 B: ふーん、この方が先生ですか。 A: いいえ、このジーンズをはいている方が先生です。 B: へええ...
17	1	飛び込み	ICUプール 衣装: 水着	A: インストラクター 男 B: 日本人学生 女④ C: 日本人学生 女⑦	A: (下のボードで) ここから飛び込みますか。 B: はい、飛び込みます。(飛び込む) A: (上のボードで) はい、では、次はここから。 B: ええー、こわくて飛び込みません。 C: こわいー!
18	2	歌舞伎	スタジオ (バック: なし) 小道具: 歌舞伎ポスター なすべと太さちもの 衣装: 普段着	A: 留学生 留男① B: 日本人 女②	A: 歌舞伎を未だ一度も見ることがないので、見てみたいのですが... B: 実は、私も見たことがないのです。 A: へえー、じゃあ、一緒に見てみませんか。 B: そうしましょうか。(ニッコリ)
19	3	名所案内	スタジオ (バック: なし) 小道具: 本(案内書) 椅子 衣装: 普段着	A: 留学生? 留女① B: 日本人 女①	B: 何をしていますんですか。 A: 東京の名所(美術館?)をしらべているんです。 休みにになったら、東京の名所(美術館?)巡りをしようと思って... B: 名所(美術館?)巡りですか。私は何をしようかな。
20	1	結婚祝い	スタジオ (バック: 喫茶店) 小道具: なし	A: 女 女⑤ B: 男 男①	A: 結婚祝いに、田中君に何をあげましょうか。 B: そうだね、あのベアのコーヒークップはどうか。
21	3	写真	学生 L.8-1/13-3に同じ	A: 若い女性 B: 女性 C: 男性 D: 男性(うっすん)	A: すみません。シャッター押して下さいませんか。これです。 B: あ、あの入道、写真を撮ってもらいましたよ。私たちも、とってもらいましょうか。 C: そうですね。 B: すみません。あのう、シャッター押して頂けませんか。
22	3	自動ドア	? (壁内にあるのか) → A棟2F	A: 社会人 B: 社会人	A: (立っていれば開くと思っている。) B: そこを押すと開きますよ。
23	1	焼きそば	スタジオ 小道具: 野菜 肉のつみ フライパン 衣装: 普段着+前かけ	A: 男② B: 男③	A: 野菜は? B: ここ。もう切ってあるよ。 A: 肉は? 冷蔵庫に入れている? B: 出してあるよ。そこ。そばも。 A: OK、始めよう。

ICU初級日本語教材 ビデオ制作項目一覧表

P. 3.

Lesson	Image	Title	Filming Plan	Characters	Conversation
24	2	松前線 台風(= 変更)	スタジオ (ニュース風) 衣装 スーツ+ネクタイ	A: アナウンサー 男①	A: 気象庁の発表によりますと、東京では、4月1日頃、桜が咲き始めるということです。
25	1	避難袋	スタジオ 小道具 避難袋 (トーチ、ろうそく、ラジオ、食料品、つくえ)	A: 留女① B: 女①	A: 何ですか、それは。 B: これですか、これは「避難袋」です。大地震が起こったときのために用意してあるんです。 A: 何が入れてあるんですか。 B: 懐中電灯とか、ろうそくとか、電気が消えたときのためにね。情報が聞けるように、小型ラジオも入れてあります。ほら。 A: ええ、あつ、食べ物も入っていますね。 B: 2、3日は、困らないようにね。
26	2	シンポジウム	芝居 L 8-1 に同じ	A: B:	A: シンポジウム、良かったですよ。 B: ええと、何のシンポジウムでしたっけ。 A: ほら、「環境問題について語るシンポジウム」ですよ。本当にいい話をたくさん聞きました。 B: そうですか。私は、行かなかったんですが、行けばよかった。残念です。
27	1	昼食会での挨拶	スタジオ 衣装 A: L 24-2 に同じ B: スーツ+ネクタイ	A: 司会者 男① B: 韓国人留学生 男②	A: えー、それでは、本年度の当財団の奨学生、バクさんをご紹介します。バクさん、どうぞ、こちらへ。(拍手) B: えー、ただいまご紹介頂きました、バクでございます。韓国のソウルから参りました。
28	3	電車の中の親切	スタジオ (バス、電車の中) 小道具 ティスバック他 衣装 A: 普段着 B: L 2-3 に同じ	A: 男性 男③ B: 学生 (女性) 女③	A: お持ちしましょうか。 B: 持って下さるんですか。すみませーん。 じゃ、これと、これと、あつ、これもお願いしちゃっていいですか。 A: ええつ、こんなにですか。
29	2	鈴木道場	鈴木道場 男① ネクタイ+スーツ 男② //	A: 社会人 男① B: 留学生 男② 女	A: さあ、着きました。ここが道場です。どうぞ。 B: ええ、こういう玄関は、初めて見ました。この道場は、いつごろ作られたんですか。 A: 60年位前です。すいぶん、古いでしょう。
30	3	見違えました	スタジオ (バス、バスなし)	A: 社会人 男③ B: ノンジャバ 留男① もい髪が長い男② 髪が短い人	A: あれえ、ジョージさん、髪の毛を切ったのですか！ 誰かと思った。 B: びっくりさせて悪かったですね。明日、就職の面接なんですよ。 A: ハンサムで見違えました。
31	1	花のトンネル	スタジオ 小道具 なし 衣装: ICU 校舎木造(花)	A: 学生 男① B: 学生 女①	A: きれいですね。 B: まるで花のトンネルのようですよ。 A: 本当に見事です。
32	3	タッチの差	バス(バスあり)	A: 女子学生 ④ B: 男子学生 ①	A: あつ、いけない、バスがきた。 B: 走ったら、間に合うかもしれない。走りましょう。(バス出る) B: あーあ、もうすこしだったのに、... A: 残念だったわね。
33	3	花を送る	スタジオ (バス: 花屋)	A: 客 男① B: 店員 女④	A: 花を送りたいんですが、外国に送るのは無理でしょうね。 B: そんなことはありませんよ。円でお支払い頂くと、向こうの花屋が 花を選んで、届けてくれることになっています。 ちょっと分かりにくいシステムかもしれませんが、... A: いいえ、分かりました。要するに、先方に届けてくれるのは、向こうの花、という訳ですね。